

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091601239		
法人名	社会福祉法人 平和の聖母		
事業所名	グループホームメゾンマリア		
所在地	福岡県久留米市津福本町字草場272-1 (電話)0942-35-8777		
自己評価作成日	令和 2 年 1 月 1 日	評価結果確定日	令和 2 年 3 月 31 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

市内中心部近郊のため公共交通機関が充実しており、グループ法人である社会医療法人や学校法人も近隣にあるため、職員教育を始め地域の社会資源としても多様な面で連携している。ケアの個別性向上を目的に、全室に睡眠・呼吸・体位状況を随時把握できる見守りシステムを導入し、記録類ではICT化を推進し、職員の負担軽減を図っている。建物は中庭を中心に陽光が差し込みやすく、色合いも温かみのある造りとしている。運営推進会議では、毎回多数の家族等の参加があり、様々な意見等を確認できる機会となっている。各ユニットに多目的室を設け、家族の面会宿泊等に活用している。併設施設とも非常災害時や食事、栄養面で連携を図りながら、内外問わず各種機関と協働で多様な地域支援活動にも積極的に取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 2 年 2 月 13 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

同グループ母体の病院が近隣にあり、同法人のケアハウスやデイサービスセンター等が同敷地にある。近隣は民家や店舗に囲まれているが静かな環境に鉄筋コンクリート造りの2階建ての2ユニットの事業所である。全室南側に居室があり、中庭に向かいウッドデッキがあり、廊下に面し、二重ガラス張りになっており、暖かな日差しが差し込んでいる。広々した食堂・リビングは床暖房になっており、対面式の座位キッチンがあり、利用者がお手伝いしやすいように工夫されている。コンピューターで行う見守りシステムを導入し、安全で安心できる個別ケアを実践している。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼や昼礼時の唱和を継続することで、在るべき職員像の意識向上に努めている。また、内部研修のテーマにも掲げ実施することで、職種を問わず更なる浸透を図り、日々のケアに繋げている。	法人全体で、地域と共に、地域と寄り添う、カトリックの理念に沿った事業所独自の理念があり、申し送りの時や、理念研修で唱和し、個別ケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民や学生ボランティアの受入による、利用者との交流を推進している。地域交流を主たる目的に、夏祭りやバザー等を定期的に行っている。自治会や地区社協、児童委員とも協力し、いきいきサロンやキッズクラブ(子ども食堂)、ひまわりサロンの実施と参加をすることで、利用者との多世代の交流に取り組んでいる。	隣接事業所で行なわれる市や地元社協主催の認知症介護者のおしゃべり会や、サロンで行う子供食堂、体操やレクリエーションの協力や、法人内で行うバザーや夏祭り、クリスマス会に、地域の方々が毎年楽しみに参加され、地域の一員として日常的に交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の関わりで得られる認知症の方へのケアの在り方について、その振り返りや更に向上できるように、認知症サポーター養成講座の実施や地域での認知症声かけ訓練への参画、地域包括支援センターと協働したおしゃべり会に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	継続して平均20名程度の参加者となっており、様々な面での意見も活発に挙がっている状況である。今後も意見を発信しやすい雰囲気作りにも努めると共に、それらを積極的に取り入れることで、更なる満足度の向上に繋げる。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、参加者は利用者が7名位、家族は9名位、包括支援センターや町内会役員が参加し、毎回20名ほど参加されている。行事や事故報告など利用者やサービスの実際、評価への取り組み等について、報告や話し合いを行い、家族への連絡方法や外出行事などの意見をサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営基準及びサービス提供に係る内容は都度確認し、事業所の実情の報告や適宜助言等を得ることで、適正な事業運営に繋がっている。また、定期的な運営推進会議に限らず、市主催のイベント等にも積極的に参画することで、顔が見える関係を構築し関わりを深めている。	市町村へは運営上の相談を行い、地域包括支援センターは、研修等の講師の依頼や包括主催の認知症声かけ訓練やおしゃべり会などイベント参加を通じ、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	担当職員を配置し、身体拘束廃止に関する指針の整備や定期的な発生状況の有無、内外研修等による意識と知識の向上を継続して図っている。また、利用者の安全面及び施設の防犯面を十分配慮した上で、メイン玄関の施錠は避け、建物の構造上も開放的な造りと雰囲気を心掛けている。	内部は、ガラス張りの可視化による見守りを行い、各居室に設置した見守りシステムにより状態を把握し、利用者が、自由に過ごすことができるように、拘束しないケアに取り組んでいる。職員はサービス向上委員会主催の研修も行っている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	担当職員を配置し、事業所単位に留まらず拠点単位でも毎月1回発生状況等を確認することとし、多職種によるあらゆる視点で検討する機会を設けている。継続して外部講師による研修を実施し、日々のケアの振り返りと共に、日常の言葉使いやマナーにも気を配ることとしている		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体の制度の理解が十分とは言えないため、その部分を重視した内部研修や外部研修参加の充実化を図っている。現在、活用している利用者もいるため、関係者との連絡はもとより、制度の動向も確実に把握することで、まずは制度に触れる機会を増やすこととしている。	家族に対する権利擁護の制度に関する説明は、利用開始時に行っている。職員は理解を深めるために、市主催の研修の参加や内部での研修も行い、学ぶ機会や制度に触れる機会を増やし、積極的な取り組みを行っている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の内容については、丁寧に説明しながら進め、項目毎に適宜不明な点等について確認するよう努めている。内容の変更については、随時覚書等にて対応し、必ず説明の上、書面にて同意を得るようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	表出する要望だけでなく、日常の関わりや日々の生活リズムを通しての理解にも努めている。家族については、面会時や運営推進会議等を通じて、意見や要望を伝えやすい関係性の構築に努めている。また、ご意見箱や法人内に有識者による第三者委員を設置し助言等を受けている。	利用者との日頃の関わりや、さりげない会話を通じて、意見が出やすいように言葉かけを行い、外出や買い物、外食などの要望を取り入れている。家族からは、運営推進会議や面会時に要望が出され運営に反映させている。意見箱の設置や相談員の案内も行っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的実施する職員面談において、業務全般に関する意見、要望を把握し、内容によっては積極的に導入し業務再編に反映させている。管理者に限らず、他の役職も面談を実施することで、リラックスした雰囲気からの柔軟な意見の吸い上げを重視している。	施設長は、ミーティングや業務中に、職員から思いやアイデアを聞き、リーダーは職員に年に2回面談を行い、提案や意見を聴く機会を設け、運営に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のモチベーション向上に繋がるよう、個々の仕事におけるやりがいの把握に努めている。待遇面では定期昇給を始め、LTD制度への加入や健康診断等の福利厚生面の充実化を図っている一方、職員間の関係性の構築に向けた取り組みも適宜実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員採用にあたっては労務の専門家や公共機関へ適宜助言を求めると共に、スキルや経験の有無にこだわり過ぎず、福祉従事者としての姿勢や人柄を重視している。個々の能力を最大限発揮できよう、内部完結の業務に限らず、積極的に外部と関わりながら取り組める機会を設けている。	職員の採用は施設長と主任が行い、性別や年齢等を理由に採用対象から排除されることはない。本人の能力を発揮し、生き生きと働けるように、職場環境を整えている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	権利擁護関係と併せて、職員個々の意識が向上するよう内部研修を複数回実施している。並行して、外部研修にも積極的に参加し、そこで得た知識を事業所全体に浸透させている。また、掲示物やリーフレットを通じて啓発することで、随時見聞きする機会を設けている。	施設長は、利用者に対する人権を尊重するために、職員に対して、研修に参加する機会を設け、基本的人権の理解に努めている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場経験の有無を問わず、新入職員にはマニュアルに沿って、一定の研修機会を設けている。内部研修においても、職員が現場での経験を踏まえた内容で計画実施することで、伝える能力が育まれており、他事業での多様な取り組み工夫を参考にしたケアの実践に繋げている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者からの見学等は積極的に受け入れているが、こちらから出向くことができていない。今後取り組むことで刺激を得ると共に、日々のケアの参考にしていく。継続して多様な団体主催のイベント等に参加することで、ネットワークの構築は推進できている。今後は交流の場を更に設けていく。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族やケアマネージャー、医療機関などから情報収集した上で初期の関わりを設けている。時間配分にも配慮しながら、話しを伺う姿勢や質問の方法を始めリラックスした雰囲気や心掛けながら、潜在的な要望、ニーズを引き出せるよう努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できる限り直接顔を合わせて話しを伺うことで、良好な関係づくりに繋げている。利用者との関係性や意向確認にも気を配り、傾聴の姿勢を意識している。些細なことが不信感にも繋がることから、簡潔かつ正確な伝達も心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容と本人及び家族の現状を照らし合わせ、必要なサービスの見極めに努めている。状況に応じて併設事業の専門職にも助言等を求めることで、より幅広い視点でニーズを捉え、具体的な支援内容に加えて多様なサービスや社会資源の活用も提案している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニット内の作品作りや各種イベントの準備、昼食及びおやつ作り等、利用者と職員の共同作業を重ねていくことで、より顔なじみで安心できる関係性の構築に繋げている。日々の生活、支援の中においても、単なる言葉のやり取りにならぬよう、声かけの内容を工夫している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会頻度も比較的高いことから、家族によっては職員との関係性も深くなっているため、意見や要望も適宜把握できている。ただし、大家族とは言えない状況のため、今後はより多くの家族と関係性を深めていく必要がある。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの場所へ定期的に出向く機会を設けることとし、関係者との交流も職員も積極的に図ることで、訪問しやすい雰囲気作りにも努めている。有形無形問わず、心の拠り所は様々であることを念頭に、外部にも協力を仰ぎながら取り組んでいる。	職員は、利用者や家族に、知人や馴染みの場所を聴取して把握し、夢実現活動として支援を行っている。知人の面会もあり、関係が途切れないように努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が橋渡しをすることで利用者同士の会話や活動のきっかけ作りや円滑な関係性の構築に繋げている。それぞれの個性を理解し尊重し合う言葉や行動も垣間見える。今後も相互理解が深まる工夫を重ね、支え合える生活環境を整備していく。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も事業所への訪問は継続してあり、事業所のイベント等のお知らせも適宜行い、参加していただいている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	多職種での視点にて、利用者のこれまでの生活背景等を理解しながら、アセスメントにも活かしている。日々の生活の中で得られる些細な言動や表情から、利用者個々の希望を汲み取ることで、より本人本位の意向把握とその実践に努めている。	日常の関わりの中で、利用者が発した言葉の真意を推し測ったり、思いや意向の把握に努めている。記録に残したり、ユニットミーティングなどを通して、職員全員で共有している。意思疎通が困難な方も、家族から情報を得て、好きな食べ物などを提供して食べていただき、愛犬を亡くされた利用者に職員の愛犬を連れてきて喜ばれるなど、利用者寄り添う介護に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人始め家族や関係者にも生活歴を確認している。そこで得られた情報をもとに、環境の変化に伴う不安感が生じないことを念頭に、でき得る限りこれまでの生活スタイルを維持しながら、ケアの提供に取り組んでいる。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々が自身のペースで思い思いに過ごせるような空間作りに努めている。ただし、決して事業所本位の生活の流れにならないよう、安全面等にも配慮しながら把握することとしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、他職種との検討や主治医等の助言を集約した上で、本人及び家族の意見や意向を計画に反映させている。作成の過程における新たな気づきもあるため、そこに客観的な視点をもとにした、利用者の現状に沿った計画を作成している。	担当者が情報を記録し、家族からは面会時などに意見を聞いている。往診や受診時に、医師の意見をもとに、ユニット毎にミーティングを行い、意見を反映している。プラン作成やモニタリングは計画作成担当者が立案している。担当者会議には家族の参加が全家族ある。6ヶ月に1回、状況の変化に応じてその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録については専用のソフトを基本に利用者や事業所のカラーに合わせた内容に適宜変更することとし、ユニット毎に専用のノートも設置することで、円滑な情報共有や意識の統一化、介護計画の見直しに繋げている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者及び家族双方の多種多様な希望を把握することとしている。限られた時間の中で、家族としたいこと、家族がしたいことは多く存在することから、その実現に向けて時には併設施設の助力も得ながら、柔軟に対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	拠点単位で開催する地域向けのイベントへの参加や地域のボランティアの受け入れ、保育園等との交流を継続している。利用者を主体としたこれらの活動は、地域ボランティアの活性化、地域の学生等の育成支援にも繋がっている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は事業所が特定せずに、本人や家族の意向に沿って受診の支援をしている。心身状態によって変更を要すると思われる際には、事前に本人及び家族へ相談の上、移行することとしている。かかりつけ医には、随時連絡、相談をすることで、本人の状態を共有できるよう努めている。	入所前のかかりつけ医を希望される利用者には継続した受診を支援している。主治医と事業所の顔が見える関係を築きながら、適切な医療が受けられるように、受診時は職員が必ず付き添い支援しており、家族に結果報告を行っている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護職に限らず、連携する訪問看護ステーションとも、定期的な体調確認と併せて、日中夜間問わず相談連絡が取れる体制となっており、常に最新の情報を共有できている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	●グループ法人が協力医療機関となっており、総合病院でもあるため主とした入院機関となっている。入退院時以外でも日常から適宜MSW等との情報交換等を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に細やかに説明をしながら意向を確認することとしている。また、利用開始時よりも心身状態が変化することもあるため、随時再確認することとしており、その方らしい最期の支援に繋げている。家族支援にも適切に携われるよう、その関わり方も十分配慮し、状況に応じて必要なスペースを確保しながら、かかりつけ医や訪問看護とも連携している。	「重度化対応及び看取り介護に関する指針」があり、契約時に説明している。「看取りについての事前確認書」を作成し、意向確認を行っている。かかりつけ医の往診、訪問看護、24時間在宅専門クリニックなども契約を行い、医師や看護師と連携している。ターミナルケア全体研修を行い、職員のケアの質の向上に取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年齢や基礎疾患によっては突発的に発生することも十分あり得るため、それに備えマニュアルを整備し、定期的に訓練及び研修を実施している。職員によって技術に差があるため、より具体性のある研修等を繰り返すことで、全体的な底上げに繋げている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時のマニュアル整備や消防署の立ち合いのもと、併設施設と協働での昼夜を想定した避難訓練を実施している。避難経路も複数設け、安全で確実な避難及びその誘導の繋げている。昨今頻発している、風水害時でも安全が確保できるよう、ポンプによる排水訓練を実施している。	年2回、消防署立会いで、夜間想定も含む火災訓練を併設施設と協働で行い、避難経路も複数設け、風水害時・地震想定訓練を地域住民も参加して実施している。事業所独自に毎月、防災ミーティングを行い職員全員が利用者が安全に避難できるよう努めている。非常用食料・飲料水・備品は隣接施設に準備され備蓄一覧表も作成されている。	備蓄品は隣接施設に保管されているが、災害時に事業所内へ閉じ込められた場合を想定し、ホーム内で保管、管理をして欲しい。
soute					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの尊厳保持の一つとして、言葉使いを始めとした接遇面が重要となる。入職時や定期的な職員研修を通してその意識を高めることで、いかなる時も落ち着いた言動を保てるよう努めている。普段の声掛けも、利用者の状況に応じて、不快にならないよう気を配っている。	「かけがえのない尊厳ある人」と理念に掲げられており、利用者1人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけないように、配慮している。「言葉の乱れがケアの乱れに通じる」と接遇教育にも力を入れ、内部研修を行い、プライバシーに配慮したケアを心掛けている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で選択や決定ができるよう、衣類や食事、入浴等に関する要望を確認することとしている。ニーズ全てを把握できているとは言えないため、今後潜在的ニーズと合わせて引き出せるよう、普段の関わりから言葉や表情からも把握していく必要がある。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	予定されたスケジュールにこだわらず、本人の表情や食欲、活気等の変化を察知し、その状態に合わせて一日を過ごしていただいている。昼夜問わず本人の意向を尊重し、安らかな生活に繋げている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の衣類については本人が選ぶことで好きなものを好きな時に着用できるようにしている。希望に応じて訪問の理美容も依頼することで、清潔感ある身だしなみに配慮している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	座位でも調理等に参加できるキッチンを設置し、身体状態に合わせた準備や片付けを実践している。準備の際には、エプロンやキャップを着用してもらうことでメリハリを付けている。食事も食材や色合い、食器にも気を配り、楽しい時間となるようにしている。	基本は3食とも業者による調理済み食材配達であり、炊飯・吸い物・小鉢のみ事業所で調理している。利用者は身体状況に合わせて、小鉢の盛り付けや配膳を手伝い、意欲の向上を図っている。日曜日の昼食は、利用者と一緒に台所で昼食づくりを行っている。敷地内で野菜作りを行い、利用者と一緒に収穫して夕食に出している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や心身状態によって食事、水分摂取量も変動するため、摂取状況については毎回記録に残している。必要に応じて併設施設の管理栄養士を始め主治医とも協働し、経口補水液の提供や栄養補助食品、食事形態も柔軟に対応している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や就寝前の口腔ケア、義歯洗浄を徹底し口腔環境の清潔保持に繋げている。虫歯や義歯の不具合による不快感は食欲低下等を招くため、協力歯科機関との連携をもとに、口腔環境の維持向上に繋げている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、声掛けのタイミングやその方法も個別に実施している。様々な心身状態の中で、おむつ使用を減らし、かつ利用者や職員の負担も軽減することができるよう、トイレの設置場所や数、設備面も充実させている。	排泄パターンを利用者ごとに把握し、トイレや居室へさりげなく誘導している。オムツやパッドの使用は排泄チェック表で尿量・回数など排泄状況を把握して、職員で話し合い、家族に購入してもらっている。かかりつけ医と連携して排泄の自立・改善に向けた支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による苦痛は生活意欲全般の低下を招くため、排泄チェック表を用いて随時状態確認を行っている。水分摂取や食事メニュー、運動も工夫して取り組み、自然な排便に繋がるよう努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	日々の入浴時間は余裕を持たせ、本人の希望に合わせて声掛けをしている。設備面でも個別のシャワールームやシャンプー台を設置し、気分や要望に合わせての提供が可能となっている。身体状態に合わせて、複数スタッフでの介助や福祉機器を活用することで、ゆっくりかつ安全な入浴を提供している。	週3回入浴の設定はあるが、毎日準備しており、一人ひとりのタイミングや希望があれば入浴できる。シャンプー・入浴剤など持ち込みもできる。シャワールームやシャンプー台も設置され、希望に対応できるようにしている。入浴拒否される利用者には、言葉かけを工夫したり、時間をかけて寄り添うなど、無理強いはせず、話を聴いたり、足浴を行ったりしてリラックスできるように工夫し支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は適度な休息を組み入れながら、活気ある時間となるよう趣味活動を取り入れている。長時間の休息は夜間睡眠の妨げ、意欲減退に繋がるため、心身状態と日々の変化に注意しながら、声掛けを工夫することで、安眠や休息に繋げている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法用量や注意点等を把握できるよう、職員全体で薬の説明書を確認している。カレンダーへのセット段階と別に服用前には2名以上での声出し確認をしている。服薬後の体調確認についても適宜主治医や薬局等に相談連絡している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割の創出の一つとして、室内での食事準備や環境整備を始め、屋外での農作業の機会を設けている。行程の中で利用者間のコミュニケーションの一つとしても捉えることができ、普段とは違う一面を見ることができている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出行事、近隣への散歩、スーパーへの外出や併設施設への出向く等、短時間であっても屋外に出る機会を増やしている。また、本人の希望を聞き取り、それに沿った外食や外出の支援も家族の協力を得ながら実践している。	隣接した周辺施設に買い物できる場所が多くあり、近隣への散歩や買い物など、外出を行っている。事業所で「夢実現プロジェクト」を企画し、今週の活動予定を利用者に随時聞き取りして、友人の所へ会いに行ったり、来てもらったり、以前利用していた美容室へ行くなど、身近な夢の実現へ、普段行けない場所への外出など、積極的に支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食での注文や買い物での品物の選定、支払いまでを本人のペースで完結できるように支援している。利用者の希望に応じて、管理方法を柔軟にすることで、金銭が手元にあることが安心感に繋がるようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会する家族が比較的多いため、電話での関わりは多いとは言えない。ただし、本人や家族の希望がある際はその機会を設けている。手紙やメッセージについても、本人の意向を伺いながら居室内に掲示することで安心感に繋げている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭を中心に据えた造りとする中で、開放的かつ、四季の移ろいを感じるができる。室内も採光のバランスに考慮した落ち着いたデザインとしている。床暖房や座り心地の良いソファを設置し、快適な空間に繋げている。混乱を招かぬよう急かつ大掛かりな空間の変化は避け、住み慣れた居場所作りを意識している。	季節感のある掲示物を利用者と職員と一緒に作り、掲示されている。落ち着いたある木製の家具が配置され、居室から廊下を通ってリビングへと自宅のようなプライバシーを配慮した構造となっており、開放感のある造りになっている。アイランドキッチンには、リビングにいる利用者とコミュニケーションを取りやすく、車いすの利用者もキッチンに立てるように配慮されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング等の共用部とは別に多目的室を設けており、独りの時間や家族等との時間を気兼ねなく過ごせるようにしている。リビングでは日常が充実するよう、利用者同士が楽しめる趣味活動や集団活動を取り組む場としている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には制限は設けず、利用者それぞれが馴染みの物を居室内へ持ち込み身近に感じられることで、落ち着ける空間作りをサポートしている。清潔の保持に向け、清掃もこまめに行い、24時間換気と合わせて生活感のある中においても、快適な居室空間を心掛けている。	居室は、ベッド・マットレス・カーテン・エアコン・24時間換気・見守りのスキャンなどが備え付けられ、利用者が安全に生活できる環境が提供されている。慣れ親しんだ家具・テレビ・仏壇・家族写真・好みの飾り物などが配置され、居心地よく過ごせるような空間となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者それぞれの身体状態に沿って移動できるように、建物全体への手すりの設置や共用部と居室間にベンチを設けている。専門的な機能維持向上への取り組みは難しいが、利用者一人ひとりが自分のペースで移動できるように安全面に配慮しながら、その機会を設けている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの		
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある		
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある		
			<input type="radio"/>	③たまにある		
			<input type="radio"/>	④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が		
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが		
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが		
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が浸透するよう職員全体で唱和している。加えて、定期的な研修を実施し、その意義も理解できるようにすることで、職員としての在るべき姿勢の意識向上に繋げ、日常のケアに活かせるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に開かれた事業所の一つとして、様々なボランティアの受入を推進している。事業所でのイベントのみならず、地域のイベントにも積極的に参加することで、地域との繋がりを深めている。事業所単体ではなく、外部機関とも共同で実施するものもあり、今後も継続していく。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	これまでのケアや研修等を通して得た知識や経験を活かし、認知症キャラバンメイトとして、認知症サポーター養成講座の実施や地域の認知症支援推進に向けた支援機関として活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者数が毎回平均20名程度となっており、家族及び関係機関等の参加も多数を占めている。それにより、多種多様な意見が挙がるため、事業所の取り組むべき点を具体的に知ることができ、かつ実践することでサービスの向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業運営を進める中で疑問等がある場合には、その都度確認し、より適正なサービス提供に繋げている。運営推進会議では事業所の実情を直接報告できる機会にもなっており、必要に応じて助言等を求めることとしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修によって理解を深めると共に、指針の整備や定期的な拠点単位での発生状況の有無について確認している。日常生活の習慣自体が行動制限に繋がることを意識する上でも些細な気づきを事業所全体で共有している。メイン玄関は施錠せず、構造も開放感を目的に常に日光や外気が差し込んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回以上は発生状況等の確認を進め、外部から講師を招いての研修を定期的実施している。防止への方策として、接遇面での意識向上を図っており、その研修についても内部外部問わず実施参加を促進することで、日常からの言葉遣いにも気を配っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に制度を活用する利用者もいるため、関係者とは常に連絡を取り合い支援している。事業所全体を通して、制度内容に関する知識が少ないため、研修の参加実施を通して、制度の理解を積み重ねると共に、制度の動向も把握できるよう参考資料やリーフレットを活用している。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書について、しっかりと丁寧に説明をしながら、項目毎に不明な点等について確認している。内容の変更については、必ず説明の上随時覚書を取り交わすこととしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の関わりを通して、言語非言語問わず利用者からの要望や意見を常時把握し、ケアに反映させている。家族からは面会時や運営推進会議等での把握に努め、入口に意見箱を設置している。第三者委員や市町村窓口、運営適正化委員会等の外部機関についての説明を行い、第三者委員においては、定期的に助言を得る機会を設けている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員面談や会議及びミーティング等を通して意見を募り、検討を重ねた上で積極的に業務に反映させている。利用者目線での柔軟な発想を取り入れることで、更なる意見の活発化に繋げている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	モチベーションアップに向けて、役職等にこだわらないコミュニケーション空間の構築に努めている。各規則規程の見直しも適宜実行し、キャリアパス規程をもとに昇給昇格も実施している。退職金制度と合わせて所得補償保険にも加入し、将来的な部分も手厚くすることで、就労環境の安心感の一つとしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたっては、経験の有無も問わず、意欲や姿勢を重視している。個性や能力をいかんなく発揮できるような雰囲気作りに取り組んでおり、役職者についても同様に幅広い年齢層や性別を問わず配置することで、全職員が目標や希望を持続できる組織風土の醸成に繋げている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念にも通じるものがあるため、職員研修や外部研修を通して、倫理観を始め専門職としての責務や姿勢について定期的に学ぶ機会を設けている。随時掲示物や文書等を活用し啓発に努め、拠点単位でも情報共有を図っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員は研修プログラムに沿って現場研修と合わせて実施している。入職後は様々な内外の研修を通して徐々にスキルアップを図ると共に、必要に応じて他事業所への現場研修を組み入れることで、柔軟な視点の醸成に積んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の各種団体や他事業所のイベント、地域包括支援センター主催の研修会等に積極的に参加することで、ネットワークを構築している。サービス種別を問わず交流を活性化することで、新たな視点で取り組むことの重要性を知ることができている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報を家族やサービス事業者等の関係者から収集した上で、初期の関わりを設けている。話しを伺う姿勢や受容と共感を意識し、場合によっては複数回重ねることによって、安心できる存在であると感じ取れるようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関わりやすい施設の雰囲気作りと職員像の構築を意識し、要望や希望を引き出せるように努めている。利用者との関係性を始め、家族のペースで相談していただけるよう時間にも余裕を持って対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	求められるサービスに向け、アセスメントの質を意識している。それをもとに利用者や家族がニーズを把握しながら、事前に事業所内で共有することで、スムーズな支援展開に繋げている。初期段階は、コミュニケーション能力が求められるため、適宜スキルアップを図っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と日常生活を共に過ごす中で、礼節の部分が緩まない雰囲気作りに取り組んでいる。利用者の立場になることがどういったものかも、研修を始め事業所内でのミーティング等を通して、常に意識できる環境作りを努めている。その上で、声かけや活動内容を工夫し、互いに支え合っている関係性の構築に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の面会時の関わりでは、様々な希望を伺える機会となっている。状況に応じて外出等の支援も協同で行うことで、利用者家族双方にとっての充実した時間の構築に繋げている。家族参加型のイベントも実施し、事業所や職員を知ってもらう機会としている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方にいる親族との再会の他、友人関係との関わりも頻繁にあっており、その継続に向けた関係性の構築や事業所の雰囲気作りを推進している。利用者によっては馴染みの場が遠方の場合もあるため、今後はその部分にも注力しながら、住み慣れた地域との繋がりに努めていく。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ることで利用者同士の会話や活動のきっかけ作り、関係性の構築に繋げている。その中で個性を理解し、気遣いの言葉や行動も垣間見える。今後も関係性を深めるお手伝いをする事で、支え合える環境を整える。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もイベント等のお知らせや別件で相談連絡がっており、必要に応じてフォローすることで関係性も継続している。今後もこれを維持することで、可能な限りサポートしていく。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	事業所目線でのアセスメントにならないよう、利用者の個々の心身状態を複数の職員の視点で把握することとしている。そこから、日常の会話や関わりを通して意向を汲み取り、ユニット内にて検討を重ねることで可能な限り実現に繋げている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話や基本情報のみならず、心身に関する情報と併せて、自宅等で使用していた生活用品等を知ることで、本人のこだわりや暮らし方の把握に繋げている。生活環境の変化は不安感等を招きやすいため、その際の心身状態も注意深く確認することとしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	単に一日を過ごすのではなく、利用者の現状が最適であるかを常に疑問に持つ視点を意識している。安全面を過度に配慮するあまり、有する力が減退しないよう、他事業所の専門職との連携や検討を重ねている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が中心となり、本人と家族の意見や意向を確認し、主治医や関係機関からの助言も組み合わせて計画に反映させている。事業所の職員とも検討することで、単なる意見や要望を取り入れるのではない、より客観的な計画作成に繋げている。可能な限りユニットの計画作成担当者同士が計画を相互チェックすることで、偏りのない計画に努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録については専用のソフトを基本に利用者や事業所のカラーに合わせた内容に適宜変更し、ユニット毎に簡易的な共有ノートも設置活用することで、円滑な情報共有やケアの見直しに繋げている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の関わりの中で個々の要望を内容によっては夢と捉え、状況に応じて随時その実現に取り組んでいる。家族についても面会時や運営推進会議等での意見を参考に柔軟に取り組むこととしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	開設から複数の外部機関とイベント等の実施を通して関わりを深めているため、今後も継続する必要がある。それにより、負担とは異なる一面や様々な表情を引き出すことができている。今後も継続することで、更なる地域資源として求められる活動を推進する。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は事業所主導ではなく、これまで受診していた医療機関を継続できるように本人及び家族の希望に沿うこととしている。かかりつけ医へは事前に相談、連絡体制を依頼することで、状況に応じて受診できるように支援している。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携する訪問看護ステーションとは共通の記録を使用、保管することで体調管理と情報の統一化を図っている。訪問時における受診の必要性の有無を始め、昼夜問わず相談できることは、特に看取り支援や夜勤帯に利用者のみならず事業所の安心にも繋がっていると思われる。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	グループ法人の社会医療法人が協力医療機関であるメリットを活かし、主とした入院機関になることを踏まえ、日常から研修やイベント等を通して、MSW等との交流や意見交換に取り組んでいる。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に関する説明を丁寧に行いながら意向を確認している。体調等の変化によって意向も変化するため、適宜関係職種を交えて再確認している。捉え方は様々であるため、心情に配慮した関わりを持つことを意識し、家族が宿泊休息できるスペースを確保する等の準備体制を整備している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの整備、AED、吸引器等の備品の整備とその使用方法の確認を適宜行うことで、発生時の適切な対応に活用している。定期的に普通救命講習を受講することで、技術と意識を保持できるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の定期的な訓練を実施することで、災害発生時に備えている。久留米市の消防本部や医療法人の救急室も立ち会いのもと、実施と講評を受けている。避難経路も複数設けており、設備の充実させているため、比較的安全性は高いが、地震や風水害も含めあらゆる災害時への訓練を実施する必要がある。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の基本として、まずは接遇に関する研修を定期的実施し、丁寧な言葉遣いが利用者を尊重することに繋がることを浸透させている。内容や場所によって、声の大きさに配慮し、特にプライバシーの部分は、十分に言葉を選びながらの支援を徹底している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関わりから意向や希望を把握できるよう、言葉に限らず表情や口調の変化にも気を配っている。食事や入浴等の日常生活では、その都度意向を確認しながら、希望に応じた内容で支援を提供している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所や職員の都合は優先せずに、あらかじめ定めたスケジュールにもこだわらず、心身状況に合わせて希望を確認し、利用者のペースで一日を過ごせるようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の衣類は本人が選んだものを着用できるようにしており、理美容についても本人や家族の要望を確認した上での利用を支援することで、日常生活の中でおしゃれを楽しんでいただけるよう心掛けている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備の際にはエプロンを着用し、配膳、注ぎ分けを始め一連の準備の中で、それぞれが役割を担っている。イベントの他、定期的なメニューも利用者が協力して作る機会を設けることで、日常への刺激と意欲の向上を図っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量はその都度記録に残し全体で共有している。必要に応じて管理栄養士へも相談し、状態に合わせて栄養補助食品や食事形態の変更等を柔軟に行っている。食事摂取のタイミングや時間帯も可能な限り希望に沿いながら提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後や就寝前の口腔ケア及び義歯洗浄を徹底し、口腔環境の清潔保持に繋がっている。義歯の不具合や不快感は食欲低下等を招くことから、状況に応じて協力歯科機関へ相談し連携を密にしている。ブラッシングは磨きにくい部分をサポートし、本人の能力の維持に繋がっている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄状況やパターンを把握し、声かけもその日の心身状況に合わせたタイミングで行っている。自立した排泄や不快感の軽減に向け、おむつ着用を基本とはせず、トイレの設置場所を工夫し設備も充実させることで、利用者職員双方にとって負担のない行動に繋がっている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による苦痛は生活意欲全般の低下になることを踏まえ、排泄チェック表をもとに随時状態確認している。適度な水分摂取、運動を工夫し取り入れながら、状況に応じて主治医や訪問看護に相談し、排泄に繋がるよう努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	日々の入浴時間は余裕を持たせ、時間や順序にこだわらずに、本人の希望に沿ったタイミングで提供している。設備面でも単体のシャワールームやシャンプー台を設置し、気分や要望に合わせて提供している。皮膚状態に合わせて備品を使い分け、機器も活用しゆったりと浴槽に浸かれるようにしている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の快眠に向け、眠りスキャンにて直近の睡眠覚醒状況や睡眠の質を把握することで、休息と活動にメリハリをつけている。ベッド及び寝具類は、心地良くなるよう、落ち着きのある色合いと感触の良いマットレスとしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬は必ず説明書を確認し、作用等を把握している。誤薬は重篤な状態を招く危険性があることを十分理解し、セット時や服用時には必ず声出し確認を基本に二重チェックを徹底している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の一連の流れに限らず、イベントの準備等でも趣味活動の延長で役割を持てるよう進めている。一日が漫然とならないよう、一人ひとりに合わせた趣味活動や楽しみごとに随時追加していく必要がある。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出行事の他に、事業所周辺の公園への散歩や散策を行っている。併設施設へのイベントへ出向く機会も積極的に設け、他者との交流にもなっている。馴染みのある思い出の場所への外出にも取り組んでいるが、今後はその機会も増やしていく。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に触れる頻度が多いとは言えないため、頻度や金額面を家族とも相談しながら、頻度を増やす必要がある。実際の買い物の際には、選定から支払いまで本人のペースで行えるよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会にお見えになる家族が多いため、電話での関わりは多くはない。ただし、本人や家族の希望がある際はその機会を設けている。手紙やメッセージについても、本人の意向を伺いながら居室内に掲示する等の支援を行うことで安心感に繋がっていると思われる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部からは中庭を臨める構造としており、日光や吹き込む風を通して、四季の移ろいを感じ取れるようにしている。室内における壁紙や家具類についても、落ち着いた色合いと統一感を意識している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング等の共用部とは別に、多目的室を設け、独りの時間や家族等との時間を過ごせるようにしている。寝具や家具類も整備し、ニーズに合わせて本棚の設置することで、気兼ねなく活用できるスペースとしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込む備品等は特に制限は設けず、落ち着いた空間作りに繋げている。居室は基準以上の広さを確保し、24時間換気による空気の入れ替えや清掃にも気を配っている。出窓や室内外の収納も充実させ、必要なものが手に届きやすいようにしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体に利用者の動線を考慮した手すりやベンチを設けることで自力歩行のサポートに活用している。全トイレの空間に余裕を持たせ、設備を充実させることで自立した動作補助に活用している。ベッドサイドには可動式のサイドバーを設置し、自力での移乗や立位の補助として活用している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		